

東京経済大学報

2011年度

夏 号

第44巻第1号

次の10年へ 着々と。

大空の蒼かぎりなく 風わたる…
うち足る未来 うち足る未来
空のごとく 空のごとく 覆ふ

(東京経済大学校歌2番より)

新図書館メディアタワー



TOKYO
TOP30
計画

高校生のわたしも、変わります。

変わらなければ、と、誰もが思い始めたようです。
例えば、ものごとを根本から考えること。

本来は、当たり前のことなのですが
キャンパスにも、こうした学生が増えてきたように感じます。

進学を考える高校生のみなさんにも、変化が見られるよう
何のために大学へ行くのか

どういう学問を専攻するのか

そうした基本から、大学選びをする方が増えてきました。

▼ Gaku-book



▲ Gaku-book for parents

というのも、東経大のスタッフで作った「ガクブック」を
3万部もお申し込みいただき、読んで下さっているのです。
「学部選びにガクブック」という書名のとおり
専攻したい学部を決めてから、大学を決めようという趣旨。

保護者の方への「ガクブック・フォー・ペアレンツ」も
できあがりました。「ガクブック」とあわせて
ウェブサイトからお申し込み下さい。

高校の先生方からのまとまった部数もお引きうけています。

次の10年へ。東経大は、着々と。



いま、東京経済大学は、TOKYO TOP30 計画を進めています。首都圏 200 余りの大学において、7つの分野で上位15%のポジションをめざすプランです。
建学の理念「第一層」のもと、チャレンジ精神に燃えるとともに、「責任と信用」に基づき、冷静な判断力を持つ次世代を育てています。
7つの TOP30 へ！ ————— 教育品質・研究実績・就職満足度・学生支援・環境の良き・国際性・社会貢献

東京経済大学

経済学部・経営学部・コミュニケーション学部・現代法学部・21世紀教養プログラム
〒185-8502 東京都国分寺市南町 1-7-34 TEL: 042-328-7724 E-mail: pr@s.tku.ac.jp
ウェブサイト: <http://www.tku.ac.jp/> モバイルサイト: <http://tku-i.mobi/>

「3・11」の記憶を胸に――



堤防が壊れた沿岸部の町は、満潮時、道路が浸水してしまう。



街なかに、津波が運んできた大型船が異様な姿をさらす。



津波がすべてを流し去った後では、そこが住宅地だったのか、田畑だったのかも定かではない。



遠目には無事に見える建造物も、その内部は津波によって破壊されている。



三月十一日に発生した「東日本大震災」は、三月卒業生を含む六百人以上の本学学生が被災地出身で自宅の損壊などの被害が少なくなく、学生本人に被害はなかったものの、保護者一人が亡くなられるなど、想像を絶する惨禍をもたらしました。余震や計画停電が続くなか、東京経済大学においても二〇一〇年度卒業式・卒業祝賀会を、そして二〇一一年度入学式をいずれも中止、新年度の授業開始も五月二日に繰り下げました。

この間、本学は被災地域の新入生と二、四年生とその家族の安否や被害状況に関する情報収集に努め、被災学生に対する経済的な支援策等を決定し、ウェブサイトに随時掲載していきました。東北新幹線がまだ不通だった四月下旬、本誌編集班は、津波で甚大な被害を受け、復旧復興に取り組む東北地方の太平洋沿岸部を訪れました。

そして今―本学のキャンパスは一見、落ち着きを取り戻しています。しかし、学生や教員はそれぞれの形で被災地と結びついています。忘れてはならないという決意と被災地への思いが静かに、しかし確かに皆の胸の中にあります。

被災地を訪れた者の多くはこう口にします。「復旧復興への道はまだ遠い」と。私たちは、「3・11」を忘れることはできません。「3・11」の記憶を胸に、なにをどう学んでいくのか。東京経済大学の変化と新たな歩みの一端を紹介します。

なお、地震発生から一連の本学の対応等については、「東日本大震災への本学の取り組みについて」として取りまとめ、今後の危機管理のあり方や大学が備えておくべき災害対策の検討に資することとしています（取りまとめの概要を学内配布）。

東経大生が
災害派遣ボランティア
「チーム国分寺」に参加

A photograph showing the aftermath of a disaster. In the foreground, there is a large pile of debris, including twisted metal, wood, and plastic. A silver car is partially buried in the rubble on the left. To the right, a blue flatbed trailer is visible. In the background, several houses are standing, some with visible damage. The sky is blue with scattered white clouds. A blue circular graphic with white text is overlaid in the top left corner.

2

「私は川崎市で三月十一日の強い揺れを体験しました。あのときの記憶が忘れられず、震災は他人事とは思えません。今年は授業開始が五月二日だったため、災害派遣ボランティアのことを知ってから参加を決めるまで、ほとんど時間がありませんでしたが、とにかく自分にできることがあればなんでもやりました（佐藤さん）」

「だれでもできることでも、人手が足りないからできていなかった」

東京から仙台市まで、学生たちは6時間以上かけてマイクロバスで移動した。被災地が近くに連れて、アスファルトのひび割れや電柱の傾きなどが目立つようになる。そして、瓦礫の山と化した町。テレビや新聞で見たものと同じ風景が目前にあった。しかし、実際には決して同じではなかった、と学生たちは振り返る。



中村祐太さん（経営学部四年）



佐藤友祐さん（経済学部二年）



清田篤志さん（経済学部二年）

「被災地に実際に立ってみると、当たり前のことなのですが、自分を取り囲むすべて、つまり見渡す限り一面が瓦礫の山となっている。そして匂い。テレビの映像にはない、圧倒されるような感覚は現地に行かないとわからなかったと思います」（清田さん）

「津波で大きな被害を受けた荒浜地区にも行きましたが、砂埃で遠くが見えないんです。ここは果たして日本なのかと思いました」（中村さん）

「チーム国分寺」の現地での活動内容は、被害を受けた福祉施設の復旧作業、障がい者のサポートなど多岐に及ぶ。尾崎ゼミの三人の学生は被災した家で土砂の片付けや引っ越しを手伝ったり、施設で書類の入力作業を行ったりした。

彼らが行った作業は、いずれも特別なスキルや経験がなくてもできるものばかりである。しかし、そうしただれでもできる作業が、人手が足りないた



活動拠点は仙台市若林区。太平洋側の荒浜地区を中心に大きな被害を受けた。



学生が片付けなどを行った福祉施設。外観からはわからないが、内部は大きな被害を受けた。

め山積みになって残されているのが現地の実情だった。

「私が担当した作業には、廃棄する書類のホッチキスを外すという作業もありました。正直だれでもできる仕事です。でも、だれかがやらないといけない仕事であることも確かです。参加する直前まで、自分にどんなことができるのかわからず心配していた私ですが、現地での瞬間、必要とされていることに従事すればいいのだとわかりました」（佐藤さん）

現地ですぐに活動してみてもわかったことは、ほかにあった。それはなにより、被災した人たちの強さだと彼らは話す。

「被災者の方々といっしょに作業を

したので、よくよく話を聞いてみると、家族や住む家を失っている人もたくさんいるんです。それでも、落ち込んでいては始まらないとばかりに、自分にできることをしようとしている。悲しさを忘れるためという面ももちろんあるのですが、それにしてもやはり、人の強さというものに驚かされました」（中村さん）

「見ず知らずの私たちを、被災者の方々が本当にあたたかく受け入れてくれたことに驚きました。そしてそれ以上に、自分が被災していても、もっと困っている人のためにできることをやろうとしている姿に心を動かされました」（清田さん）

「無理せずに、被災地の復興にかかわり続けたい」

震災からの復旧復興のため、今後、市民レベルの支援も長期に亘って必要になる。東京経済大学でも構内に募金箱を設置し、不要になった参考書を学生から集めて被災地の高校生に送るなど、学生が無理なく取り組めるような支援活動を行っている。そのうえでなお、本学の学生達の間に息の長い、多様な形で支援が根付くことが期待される。国分寺市の障がい者グループと協同して、障がい者が作るお菓子を校内の生協で常設販売するなど、福祉と経済の関係、ソーシャルビジネスについて体験的に学んでいる尾崎ゼミの学生には、大学に向けて社会的

活動の意義を発信していく役割もあると言える。

今回、被災地でボランティア活動に参加した三人の学生は、「もともと被災地の状況とそこでの苦勞に思いを巡らせ、現地の人の立場になって考える姿勢が必要」と口を揃える。

ただ、東北地方の復興を、遠く離れた東京で学ぶ学生たちが身近な問題として向き合うことは、決して容易ではないことも彼らは理解している。

「自分も東北の出身でなければ、そして尾崎ゼミに入っていないければ、もしかしたらボランティアに参加しなかったかもしれません」(清田さん)

だが、震災を経て東京経済大学に入学した学生達が、社会貢献へ意欲的なことは、今春の調査でも明らかになっ



「チーム国分寺」の活動中に使用した防護マスクとIDシール。

ている(本誌8ページ参照)。

「もしかしたら、ボランティアは特別な作業をやることで、特別な人しかできないものだと思っている人も多いのかもしれませんが。思い切って参加すればできることがあることは、私も今回の経験を通してわかりました。興味半分というと言葉はよくありませんが、あまり深刻に考えすぎないで参加してもいいのだと思います」(佐藤さん)

「現地の人には『ボランティアもありがたいが、現状を見て、それを東京に帰って伝えてくれることもありがたい』と言われました。見に行くだけでも現地に対する貢献になるし、きっと自分の勉強にもなると思います」(清田さん)

四年生の中村さんは、「今後、社会人になっても、東北の復興にかかわっていきたい」と考えている。

「今回私は、ボランティアで役に立つとうと意気込んで行ったのではなく、なにか自分に行ったことがあれば……という気軽な気持ちでした。できることがあるかもしれないし、ないかもしれない、そんな気持ちで参加してもいいのではないだろうか。今後、就職して、社会人になったとき、ボランティアとして被災地に足を運ばなかったとしても、東北のことを忘れずに、その現状に関心をもち続け、そのときの自分に出来ることをやる。無理なく、自然に、復興に貢献し続ける人間でありたいと思っています」(中村さん)

指導教員

尾崎寛直准教授

ビジネスの 視点によって 善意の継続性を 高める

私のゼミでは、国分寺市障害者センターと連携しながら、障がい者の就労・自立支援として、彼らが作るお菓子の常設販売を大学キャンパス内で行っています。

「障がい者が作ったから」という理由で買ってもらうのではなく、商品としての魅力を高め、継続可能な事業とすることをめざしており、経済学や経営学の知識をも駆使して、福祉を支えようというものです。大学で学んだ知識を生かして、販路の開拓やパッケージの工夫、消費者ニーズの分析、さらにメディアやウェブサイトを活用した広報活動などに学生たちは取り組んでいます。まさに東京経済大学で学ぶ学生ならではの支援だと思います。学生たちのアイデアで改善を重ねながら、地域に根付いた息の長いビジネスにしていきたいと考えています。

このようなゼミ活動を通して、ソーシャルビジネスについて学んでいます。儲けることを主眼に置いたビジネスではなく、社会的意義を追求するためのビジネスが今社会でも注目されています。

事実、今回の震災後、ボランティアへのニーズとビジネスを組み合わせた活動が生まれています。例えば、日帰りボランティアに参加するバスツアーなどがその一つです。ボランティアだけをして帰るものもあれば、観光を組み合わせて被災地にお金を落としていくものもあります。

これまでなら、「ボランティアを商品化するとはけしからん」といった声もあがったかもしれませんが、しかし、ボランティアのハードルを下げ、多くの人が復旧復興に「気軽に」貢献することは、結果的に被災地を孤立させ

ないことにつながるのではないのでしょうか。

ボランティアをやってみたいという思いと、人手が足りないという現地のニーズをマッチングさせることで、善意の気持ちを継続的に届けていく。そのためのビジネスモデルを、今後も学生たちに自ら体験しつつ探求してもらいたいと思います。

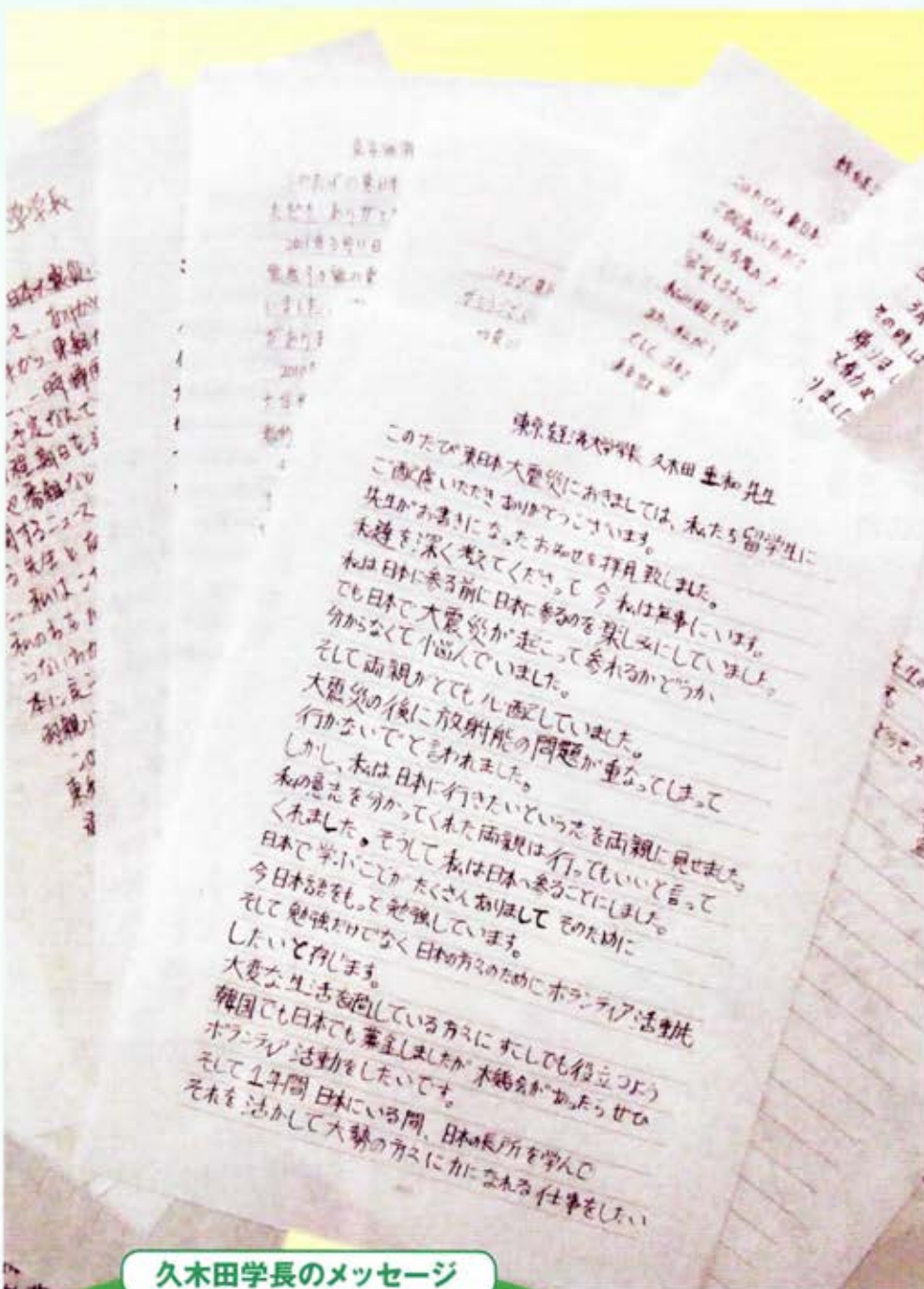


学長への手紙

震災があっても変わらない、外国人留学生たちの学びへの意欲

3月11日に発生した東日本大震災で数多くの外国人が日本から一時帰国したことは大きく報道された。東京経済大学でも、外国人留学生の不安をどう軽減し、学修をサポートするかは重要な課題となった。そして、4月21日、久木田重和学長が「母国に滞在中の留学生のみなさまへ」と題したメッセージを発表。東京の現状を伝え、安心して本学で学ぶよう呼びかけた。5月2日の授業開始時には、多くの留学生がキャンパスに戻ってきた。

日本語力養成の授業で久川伸子准教授が、外国人留学生の履修生に「久木田学長のメッセージに返事を書きませんか」と提案したところ、学生たちはこれまで学んできた日本語を駆使して、熱心に手紙を書いた。ここではその一部を原文のままご紹介する。留学生たちが日本での留学生活、そして本学での学びにどれほど大きな期待を抱いているのかが改めてご理解いただけるはずだ。



久木田学長のメッセージ

余震、原発事故の状況、さらに計画停電などについて、東京で生活する留学生のさまざまな疑問や不安を払拭するため、現状と今後の見通しを率直に語ったもの。全文は本学Webサイトでも公表している。

<http://www.tku.ac.jp/news/007790.html>

今回の大地震による津波の様子、テレビで目にしました。大きな被害を受けた東北の人々に対して、何もできなくて申し訳ない気持ちは一杯です。

地震後、私のことを心配して、両親が帰国してくれと言いましたが、私は帰国しませんでした。東京では、停電、品不足などの状況がありましたが、被災地の人の困難に比べて、大したことではないと思っております。そして、災害に向かって、勇敢に立ち上がる被災地の人々に感動しました。

原発事故が発生した後、在日外国人の多くが、帰国しようとするせいで、空港には大混乱でした。彼たちの気持ちはよく分かりますが、全力で被災地の救援を行う人に迷惑をかけることに關して、本当に恥しいと思っております。

先生は多忙の中で、私たち留学生に手紙を送りました。異国にいる私たちにとって、本当にうれしいです。お忙しいと思いますが、お体を大切に。

これからよろしく願いいたします。

(劉 鑫／中国)

先生がお書きになったお知らせを拝見致しました。

私達を深く考えてくださって今私は無事にいます。

私は日本に参る前に日本に参るのを楽しみにしていました。でも日本で大地震が起こって参れるかどうか分からなくて悩んでいました。そして両親がとても心配していました。大地震の後に放射能の問題が重なってしまって行かないと言われてました。

しかし、私は日本に行きたいという志を両親に見せました。私の意志を分かってくれた両親は行ってもいいと言ってくれました。

そうして私は日本に参ることにしました。

日本で学ぶことがたくさんありましてそのために今日本語をもっと勉強しています。そして勉強だけでなく日本の方々のためにボランティア活動もしたいと存じます。

大変な生活を過ごしている方々にすこしでも役立つよう韓国でも日本でも募金しましたが機会があったらぜひボランティア活動をしたいです。そして1年間日本に在る間、日本の長所を学んでそれを活かして大勢の方々に力になれる仕事をしたいと思っております。

私が今留学できたのは先生のおかげだと存じます。誠にありがとうございます。

先生もお忙しいと存じますがどうぞお体に気をつけてください。

(宣 常河／韓国)

来日してから、そのような大きい地震の体験はなく、地震後の余震でまたいつか大地震が起これと不安が続いていました。それに付れて、原発や放射性物質などがあり、母国ベトナムに在る両親のほう落ち着かせ、乗り越えました。

現在、東京経済大学の経営学部・流通マーケティング学科の二年生です。大学での勉強といえば非常にいい環境で便利だと思っております。自分が留学生なので、たまに授業で言葉の問題で理解できないところもありましたが、その後、授業直後に先生方に聞いてかなり積極的に教えていただきました。

将来の仕事について明確にどんな仕事をするが決めていないけれども、現在、まだ大学時期で上手に流通マーケティング学問の知識を身につけ、また日本語をはじめ英語や他の外国語も頑張って学んで行きます。そして卒業後できれば自分の能力に合った日本会社に就職を目指し、会社の貿易や国際部門に勤めれるのもチャレンジしたいと思っております。

先生もお忙しいと存じますが、どうぞお体大切になさってください。

(ヴォティ ホアチン／ベトナム)

地震が少ない中国で生活してきた私は、このたびの地震を体験して、びっくりしました。不安の気持ちはもちろんですが、日本に在る人の頑張っている姿を見て、感動しました。大震災の上、原発事故も起こして、家族は私のことを心配してくれて、毎日連絡をとってきました。私はさまざまなメディアから、情報を集めて、家族と交流しました。これからも安全だと伝えました。

私は日本が好きですから、日本へ留学にしてみました。こういう時期だからこそ一緒に頑張って日本を復興をさせようと思っております。今は、家族を説得して日本留学をつづけています。日本は経済強国として社会秩序も良いです。私はさまざまな知識を身につけて将来日本と中国の良好関係の橋をつくるように頑張りたいと思っております。

先生もお忙しいと存じますが、どうぞご自愛下さい。これからも留学生をよろしく願いいたします。

(張 賽師／中国)

新入生は社会を変えるカギとなる

新たな価値観を持つ 「3.11世代」が誕生

2011年度の新入生に実施したアンケートの結果をご紹介します。

今回は、「東京経済大学の魅力」や「受験する際に影響したもの」に加え、

東日本大震災で感じたことについてもききました。

1 東日本大震災について

大震災を真正面から
受け止めようとする新入生

「東日本大震災で思ったこと、感じたこと」について聞いたところ、「人々の助け合いの大切さをより強く感じた」「生命の大切さをあらためて感じた」という項目について、「非常に強く思う」「ややそう思う」と答えた新入生は、いずれも8割以上に上りました。

また、「これからの日本のあり方が変わる」と思う新入生は76・9%、「自分の生き方や価値観が変わる」という新入生も70・1%おり、この大震災で多くの新入生が今後の生き方に大きな衝撃と影響を受けたことがわかります。

今後自分が行いたいことを聞いた項目では、「もっとエネルギーの節約をす

る」が86・5%、「しっかりと学んで社会のために役立ちたい」が83・4%という結果になりました。

最近の若者は、意欲や社会への参加意識が低いと評されることが多いですが、アンケートの結果からは、多くの新入生が大震災のもたらした課題を真正面から受け止めようとしている様子がうかがえました。そして、自分も社会の一員だと自覚し、復興のために役立ちたいという意思が見て取れます。

震災後の日本を悲観する風潮が強い中、前向きに課題と向き合おうとする新入生。新しい価値観を持った彼らの存在はまさに「3・11世代」と呼べるでしょう。こうした学生の意欲を低下させることなく、日本の復興に寄与する人材を育てていくことが、本学にも求められています。

「今回の東日本大震災で、あなたが思ったこと、感じたことの度合いをお聞かせください」

	非常に強く思う	ややそう思う	計
人々の助け合いの大切さをより強く感じた	74.6	17.6	92.2
生命の大切さをあらためて感じた	65.9	23.1	89.0
日本の人々のたくましさを感じた	52.7	28.8	81.5
これからの日本のあり方が変わると思う	46.9	30.0	76.9
これからの自分の生き方や価値観が変わると思う	35.7	34.4	70.1
もっとエネルギーの節約をしようと思った	53.6	32.9	86.5
しっかりと学んで社会のために役立ちたいと思った	50.0	33.4	83.4

(%)

新入生が魅力に感じるのは
就職満足度の高さ

東京経済大学を受験する際に「影響したもの」を聞いたところ、「高校の先生の意見」が1位、「東京経済大学の先生の意見」が2位、「東京経済大学のガイブック」が3位と、

「高校の先生の意見」が2位となりました。

「高校の先生の意見」に影響されたという意見は、二〇一〇年には52・8%だったのが、今年度は55・3%に増加。さらに詳細なデータでは、遅い時期に意思決定をした人ほど、高校の先生

● 受験の際に「影響したもの」ランキング



● 受験の際に「魅力を感じたもの」ランキング



生の意見に影響されたと答える割合が高くなっていることがわかりました。7位の「予備校の先生の意見」も、遅く意思決定した人ほど影響度が高まっています。

「東京経済大学のガイブック」は、二〇一〇年度の56・2%と比べて今年度は54・5%と微減しているものの2位にランクイン。また、「東京経済大学のパソコンサイト」も3位に位置しており、本学が発信している情報の中では、特にガイブックとパソコンサイトでの影響度が高いことがわかります。

そのほか、二〇一〇年度との比較では、「受験雑誌・サイト」が41・7%から44・9%に、「東京経済大学の電車内の広告」が13・2%から17・7%に、「東京経済大学の携帯サイト」が11・3%から19・1%に影響度が高まっています。

また、「受験の際に魅力を感じたもの」のランキングでは、「資格取得支援」「就職への支援」「就職率」が上位を占めました。今後も厳しい就職状況が続くと予想される中、就職に不安を抱えている高校生は、東京経済大学の就職率や就職サポートのきめ細やかさなどに魅力を感じていることがわかりました。

入試課では、進路選びに役立つ情報を発信しています!

東京経済大学では、新入生や保護者から寄せられる声やアンケートの結果を分析し、みなさまのニーズに応えるための情報を発信しています。



大学案内 「SPACE 2012」

学部やゼミの情報からキャンパスライフのことまで、東京経済大学のことがパッチリわかる大学案内です。



キャリアブック 「あこがれ編集室」

「なぜ働くの?」「あこがれの職業に就くには?」など、働くことに関する高校生の疑問に答える冊子です。



「ガクブック for parents」

今、受験生の意思決定に保護者は大きな影響を与えています。大学の学びや入試、就職、費用など、さまざまな保護者の疑問に答えるガイブックです。



学部選びガイド 「ガクブック」

「大学とは?」「学部とは?」という高校生の疑問に答えます。学部選びに悩む高校生をしっかりとサポートするガイブックです。

東京経済大学

〒185-8502 東京都国分寺市南町1-7-34
入試課 TEL.042-328-7747 (直通)



すべての資料は
ケータイサイトからご請求できます
QRコードはこちら! ▶▶▶



ドンドンと来い!

OBの熱意が学生を動かした! 落研が18年ぶりに復活

部員数の減少によって活動が休止し、廃部状態となっていた本学の落語研究会が、昨年の6月、18年ぶりに活動を再開した。きっかけとなったのは、OBと現役学生の出会いだった。

ゼロからのスタート 卒業生たちが熱血サポート

二〇〇九年秋、卒業生が仕事やキャリア形成について語る授業に、ゼネコンで働く落研OBがゲストとして招かれた。東経大での学生生活を振り返りながら、「落研は人間力を培う最高の場だった。それが母校からなくなってしまうって寂しい」と話した。その言葉に背中を押された二人の二年生が後日OBに連絡...それが十八年ぶりの落研復活へとつながった。

日頃から落研復活を熱望し、「部員が集まらないのなら、自分たちの子どもを東経大に入学させて落研を作らせるしかない」とまで話し合っていたOBたちは欣喜雀躍した。二人の後輩を寄席に連れて行き、さらに着物を譲り、稽古をつけるという、まさに卒業



生と現役学生が一緒になってのゼロからのスタートとなった。

部員二人→十一人に! 高座の依頼も続々と

およそ半年間の練習を経て、昨年六月には葵会館の小ホールでお披露目を開催。ついに復活を果たしたのである。

そして今年、部員は十一人まで増えた。活動再開に向けて先輩として稽古をつけた八代目春風亭柳橋師匠(一九八〇年卒)は、今年度から本学の客員教授になったこともあり、ほぼ毎週、練習を見に来るという。プロの落語家が、それも「柳橋」という大名跡を継ぐ方が日頃から指導してくれる落研は、他大学を見てみずもない。18年の沈黙がウソのような、まさにとんとん拍子の復活劇だ。

落研復活の報は学外にも広まり、清瀬市で月一回の定期寄席が決まるなど、活動はますます盛んになっている。落研の新しい歴史は、今始まったばかりだ。

東経大落研 復活の熱演

昨年、18年ぶり再始動



「18年ぶりの熱演」と復活はメディアでも紹介される
(読売新聞)

キャンパスには 笑いの「文化」が 必要

本学コミュニケーション学部客員教授を務める
東経大落研OB 八代目 春風亭柳橋師匠

**金は出しても口は出さまいと
卒業生は我慢してますよ**

十八年ぶりの落研復活。うれしいですね。確かに卒業生の熱意やサポートもあったけれど、一番すごいのは現役学生の行動力とパワーだと思います。

十八年も待ったのだから卒業生はみな、もつと稽古をつけてあげたいし、あれこれ口出ししたくさうずしているんです。でも、あまり外野がうるさいと後輩たちがかawaiiそう。だから、ここはぐっと我慢して、金だけ出して口は出さないようにしよう……そうお互いに言い聞かせています。

でも、発表会を見に来て、打ち上げに参加すると、



つい「あそこはこうやれば完璧だった」と言ってしまう。青春時代に一生懸命になったことだから、思い入れが強いんです。だって、私が真打ちになったときも、先輩から「オレが落語を続けていたら、おまえなんざ足下にも及ばねえな」と真顔でいわれたくらいですから。そんな具合だから、現役には少しは目に見てほしいですね。(笑)

**落研は大学にとって
文化の一要素だと思います**

落研は、活動再開してまだ一年ですが、みんなどんどんうまくなっています。のびしろの大きさを感

じますね。部員も増えたことですし、このまま続けていってほしいと思います。

OBとしての夢は昼席の再開です。私が現役の頃は、毎週お昼休みに寄席をやっていたんです。学生はもちろん掃除のおばちゃんまで、おにぎり片手に聴きにきました。それは鍛えられます。今の落研も、清瀬市で毎月公演するなど、学外で活躍しています。きつともつとうまくなるはずですよ。

落語は単なる言葉遊びではなく、その中には日本の伝統の奥深さ、日本人らしきがあふれています。落語は、日本の文化なのです。そして、キャンパスで落研が活動していることそれ自体が、その大学の文化の一部であると思えます。母校のキャンパスが、もっと魅力的になるよう、落語を通してお手伝いしたいですね。



「落語の笑いは、人をおとしめることがない、ほっとする笑い。泥棒なども登場するけれど、皆どこか憎めない人物ばかり。落語の笑いは、刺激的な笑い、毒のある笑いとは違います。落語の穏やかな笑いは、私たちの社会にとってこれからはなくてはならないものだと思います」(柳橋師匠)

iPad を活用した 広報活動

～コミュニケーションを
重視して、高校生の興
味関心に寄り添う



東京経済大学では、本学の魅力を広く、的確に伝えるために、大学案内をはじめさまざまなペーパーメディアを発行し、またWebサイト上でも情報発信を行っています。そんな中、高校生や保護者を目の前に直接本学を紹介できる進学相談会は、大学により深く関心をもってもらうための貴重な機会です。高校生に対して印象に残る大学紹介を行うため、本学では今年度からiPadを活用した広報活動を展開しています。

高校生の顔を見ながら 東京経済大学を紹介する

iPadは、アップル社によって開発・販売されている携帯型のコンピュータです。ペンタプレットの使用やタッチパネルに直接触れることによって入力することができ、キーボードが不要なノートパソコンともいえます。

本学では、今年度より高校生や保護者を対象とした進学相談会で、iPadを活用しています。進学相談会では、多くの場合、大学職員と高校生が膝詰めで面談を行います。このような1対1のコミュニケーションの場で、iPadは威力を発揮します。

iPadは画面が大きいのに重量が軽いので、相手の視線が向きやすい位置に自由に掲げながら説明ができます。また、手に持たずにテーブルの上に立てて置くことも可能なので、大学職員と高校生がお互いの顔とタッチパネルを交互に見ながら会話することができるよう（次ページ写真参照）。印刷物を使うと、お互いの視線が下に固定しがちで、表情の変化を読みとるなどのコミュニケーションがしにくくなります。

また、iPadは通常のパソコンとは異なるので、高校生は話をただ聞くだけでなく、自分もタッチパネルを触りながら見たい情報を選んでいくことができます。大学側からの一方的な情報提供ではなく、あくまでも高校生一人ひとりの興味関心を大切にしながら大学情報を提供する、そんな面談がしやすくなります。

もちろん動画も見られるので、メインストリートを歩く大学生の姿、ゼミでの討論の様子などをリアルで紹介することもできます。

このように、iPadを使うことで、高校生に対

ゲーム感覚で 楽しく進学相談ができる

最近の高校生は内気で自己開示が苦手。初対面の大学職員を前に緊張してしまい、じょうずに自分の関心を打ち明けられない生徒もいます。そんなとき、iPadを使ってゲーム感覚で面談を始めれば、自然にアイスブレイクできます。



STEP 1

進学に関するいくつかの質問に、高校生が答えていくと……



STEP 2

回答が集計されて、その高校生の興味関心を分析、レーダーチャートで診断……



STEP 3

関心の高い項目がわかったら、それに関する情報を呼び出して、さらに面談を続ける



画面を高校生に向け、お互いに顔を見ながら話をしていくことが可能です。また、タッチパネルに直接触れて、見たい情報を引き出せるので、高校生が興味のある情報を自由に選んで見ることが出来ます。

ICTに強い大学に 高校生は惹かれる

する大学紹介という「プレゼンテーション」が、より豊かに展開できることになるのです。

進路相談会のようなマンツーマンの（あるいはそれに近い少人数の）面談の場合は、大学の魅力を直接高校生に語りかけることができるチャンスです。目の前の高校生の表情を見ながら丁寧にコミュニケーションすることで、高校生がどんなことに興味をもっているかを的確につかみ、それに合った情報を提供することが可能になります。そもそも最近の高校生は、iPadのような新し

いICT機器に対する関心が高いため、大学案内のような印刷物を使ったときよりも、楽しく話を聞くことができるというメリットがあります。

実際、高校生に「iPadなどを活用した大学紹介」についてイメージを聞いたところ、「新しいことを積極的に取り入れている大学のように思える」「進歩的で、かっこいいと思うし、自分もそんな大学に進学してみたいと思う」と好意的な声が寄せられました。

ツイッターで採用活動を行う企業が登場するなど、高校生もこれからの時代を生き抜くには、ICT機器を使いこなすことが不可欠だと感じています。高校生の潜在的なニーズにマッチした広報活動でもあるのです。

平成22年度

収支決算について

学校法人東京経済大学の2010年度（平成22年度）の事業報告と決算が5月26日開催の評議員会・理事会において承認され、確定いたしました。また、2011年度（平成23年度）の事業計画と予算がすでに3月24日開催の評議員会・理事会において決定しています。2010年度決算書概要および2011年度予算書概要を掲載いたしますのでご覧下さい。なお、2010年度事業報告書および2011年度事業計画書は東京経済大学ウェブサイトに掲載しておりますのでそちらをご覧ください。

資金収支計算書

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

（単位：円）

収入の部

科 目	予 算	決 算	差 異
学 生 生 徒 等 納 付 金 収 入	6,153,562,000	6,140,635,500	12,926,500
手 数 料 収 入	303,591,000	315,960,650	△ 12,369,650
寄 付 金 収 入	90,600,000	78,309,253	12,290,747
補 助 金 収 入	666,854,000	640,932,620	25,921,380
資 産 運 用 収 入	359,113,000	439,260,026	△ 80,147,026
資 産 売 却 収 入	396,574,000	396,574,000	0
事 業 収 入	142,791,000	147,168,616	△ 4,377,616
雑 収 入	96,546,000	112,239,678	△ 15,693,678
借 入 金 等 収 入	1,500,000,000	1,500,000,000	0
前 受 金 収 入	1,674,314,000	2,039,209,500	△ 364,895,500
そ の 他 の 収 入	625,177,000	650,432,193	△ 25,255,193
資 金 収 入 調 整 勘 定	△ 2,367,858,000	△ 2,440,882,915	73,024,915
前 年 度 繰 越 支 払 資 金	4,976,877,000	4,976,876,653	
収 入 の 部 合 計	14,618,141,000	14,996,715,774	△ 378,574,774

支出の部

科 目	予 算	決 算	差 異
人 件 費 支 出	4,055,494,000	4,052,909,230	2,584,770
教 育 研 究 経 費 支 出	1,911,616,000	1,809,036,275	102,579,725
管 理 経 費 支 出	535,642,000	529,233,549	6,408,451
借 入 金 等 利 息 支 出	9,042,000	9,041,195	805
借 入 金 等 返 済 支 出	49,990,000	49,990,000	0
施 設 関 係 支 出	1,997,679,000	2,033,386,041	△ 35,707,041
設 備 関 係 支 出	189,665,000	189,947,159	△ 282,159
資 産 運 用 支 出	2,804,874,000	2,326,553,726	478,320,274
そ の 他 の 支 出	104,094,000	112,023,900	△ 7,929,900
[予 備 費]	(15,000,000) 0		0
資 金 支 出 調 整 勘 定	△ 40,786,000	△ 107,293,639	66,507,639
次 年 度 繰 越 支 払 資 金	3,000,831,000	3,991,888,338	△ 991,057,338
支 出 の 部 合 計	14,618,141,000	14,996,715,774	△ 378,574,774

消費収支計算書

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

(単位:円)

消費収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学 生 生 徒 等 納 付 金	6,153,562,000	6,140,635,500	12,926,500
手 数 料	303,591,000	315,960,650	△12,369,650
寄 付 金	93,600,000	81,901,779	11,698,221
補 助 金	666,854,000	640,932,620	25,921,380
資 産 運 用 収 入	359,113,000	439,260,026	△80,147,026
事 業 収 入	142,791,000	147,168,616	△4,377,616
雑 収 入	96,546,000	112,239,678	△15,693,678
俸 属 収 入 合 計	7,816,057,000	7,878,098,869	△62,041,869
基 本 金 組 入 額 合 計	△880,506,000	△791,341,808	△89,164,192
消 費 収 入 の 部 合 計	6,935,551,000	7,086,757,061	△151,206,061
消費支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人 件 費	3,940,989,000	3,939,787,600	1,201,400
教 育 研 究 経 費	2,378,416,000	2,329,310,332	49,105,668
管 理 経 費	554,875,000	548,465,437	6,409,563
借 入 金 等 利 息	9,042,000	9,041,195	805
資 産 処 分 差 額	146,932,000	398,471,555	△251,539,555
徴 収 不 能 額	174,000	172,800	1,200
[予 備 費]	(15,000,000) 0		0
消 費 支 出 の 部 合 計	7,030,428,000	7,225,248,919	△194,820,919
当 年 度 消 費 支 出 超 過 額	94,877,000	138,491,858	
前 年 度 繰 越 消 費 支 出 超 過 額	555,965,000	555,964,415	
翌 年 度 繰 越 消 費 支 出 超 過 額	650,842,000	694,456,273	

貸借対照表

平成23年3月31日

(単位:円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固 定 資 産	33,798,223,029	31,105,752,059	2,692,470,970
(有 形 固 定 資 産)	(17,208,273,913)	(15,667,475,687)	(1,540,798,226)
(そ の 他 の 固 定 資 産)	(16,589,949,116)	(15,438,276,372)	(1,151,672,744)
流 動 資 産	4,156,558,907	5,091,747,041	△935,188,134
資 産 の 部 合 計	37,954,781,936	36,197,499,100	1,757,282,836
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固 定 負 債	3,394,601,338	2,052,506,291	1,342,095,047
流 動 負 債	2,438,622,343	2,676,284,504	△237,662,161
負 債 の 部 合 計	5,833,223,681	4,728,790,795	1,104,432,886
基本金の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第 1 号 基 本 金	26,153,541,688	25,753,504,230	400,037,458
第 2 号 基 本 金	3,068,468,850	3,035,579,500	32,889,350
第 3 号 基 本 金	3,068,003,990	2,709,588,990	358,415,000
第 4 号 基 本 金	526,000,000	526,000,000	0
基 本 金 の 部 合 計	32,816,014,528	32,024,672,720	791,341,808
消費収支差額の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌 年 度 繰 越 消 費 支 出 超 過 額	694,456,273	555,964,415	138,491,858
消 費 収 支 差 額 の 部 合 計	△694,456,273	△555,964,415	△138,491,858
科 目	本年度末	前年度末	増 減
負 債 の 部、基 本 金 の 部 及 び 消 費 収 支 差 額 の 部 合 計	37,954,781,936	36,197,499,100	1,757,282,836

平成23年度予算

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

(単位:千円)

資金収支予算書

収入の部

科 目	23年度予算	22年度予算	増減 (△)
学 生 生 徒 等 納 付 金 収 入	6,224,923	6,153,562	71,361
手 数 料 収 入	312,181	303,591	8,590
寄 付 金 収 入	41,100	90,600	△49,500
補 助 金 収 入	591,161	666,854	△75,693
資 産 運 用 収 入	343,176	359,113	△15,937
資 産 売 却 収 入	2,794,995	396,574	2,398,421
事 業 収 入	143,581	142,791	790
雑 収 入	151,179	96,546	54,633
借 入 金 等 収 入	0	1,500,000	△1,500,000
前 受 金 収 入	1,615,022	1,674,314	△59,292
そ の 他 の 収 入	1,277,987	625,177	652,810
資 金 収 入 調 整 勘 定	△1,817,090	△2,367,858	550,768
前 年 度 繰 越 支 払 資 金	3,000,831	4,976,877	
収 入 の 部 合 計	14,679,046	14,618,141	60,905

支出の部

科 目	23年度予算	22年度予算	増減 (△)
人 件 費 支 出	4,297,265	4,045,494	251,771
教 育 研 究 経 費 支 出	2,072,240	1,906,616	165,624
管 理 経 費 支 出	499,919	535,642	△35,723
借 入 金 等 利 息 支 出	39,499	9,042	30,457
借 入 金 等 返 済 支 出	49,990	49,990	0
施 設 関 係 支 出	937,755	1,997,679	△1,059,924
設 備 関 係 支 出	143,719	189,665	△45,946
資 産 運 用 支 出	3,235,701	2,804,874	430,827
そ の 他 の 支 出	35,000	104,094	△69,094
[予 備 費]	30,000	15,000	15,000
資 金 支 出 調 整 勘 定	△35,000	△40,786	5,786
次 年 度 繰 越 支 払 資 金	3,372,958	3,000,831	372,127
支 出 の 部 合 計	14,679,046	14,618,141	60,905

消費収支予算書

消費収入の部

科 目	23年度予算	22年度予算	増減 (△)
学 生 生 徒 等 納 付 金	6,224,923	6,153,562	71,361
手 数 料	312,181	303,591	8,590
寄 付 金	44,100	93,600	△49,500
補 助 金	591,161	666,854	△75,693
資 産 運 用 収 入	343,176	359,113	△15,937
事 業 収 入	143,581	142,791	790
雑 収 入	151,179	96,546	54,633
帰 属 収 入 合 計	7,810,301	7,816,057	△5,756
基 本 金 組 入 額 合 計	△361,593	△880,506	518,913
消 費 収 入 の 部 合 計	7,448,708	6,935,551	513,157

消費支出の部

科 目	23年度予算	22年度予算	増減 (△)
人 件 費	4,154,809	3,930,989	223,820
教 育 研 究 経 費	2,579,632	2,373,416	206,216
管 理 経 費	521,496	554,875	△33,379
借 入 金 等 利 息	39,499	9,042	30,457
資 産 処 分 差 額	5,000	146,932	△141,932
徴 収 不 能 額	0	174	△174
[予 備 費]	30,000	15,000	15,000
消 費 支 出 の 部 合 計	7,330,436	7,030,428	300,008
当 年 度 消 費 収 入 超 過 額	118,272		
当 年 度 消 費 支 出 超 過 額		94,877	
前 年 度 繰 越 消 費 支 出 超 過 額	650,842	555,965	
翌 年 度 繰 越 消 費 支 出 超 過 額	532,570	650,842	

東京経済大学教育振興資金寄付御芳名

「東京経済大学教育振興資金」の募集にあたり、保護者の皆様より多くのご協力をいただきました。ここに「ご寄付を賜りました方々の御芳名を掲載し、深甚の謝意を表します。ご厚志は、教育の充実や奨学金制度の拡充などのために有効に活用させていただきます。今後とも、本学発展のために「ご支援を賜りますようお願い申し上げます。」

二〇一一年七月

学校法人 東京経済大学

理事長 岩本 繁

東京経済大学

学 長 久木田 重和

個人情報保護のためWEB掲載は控えさせていただきます。

寄付金御芳名掲載にあたり、ご本人様のご了解をいただいた方の御芳名を掲載させていただきますました。その他匿名ご希望の十名様より「ご寄付を頂戴いたしております。」

(二〇一一年四月一日から二〇一一年六月三十日までの応募分)

大学史資料の ご寄贈のお願い

史料室では、大倉商業学校、大倉高等商業学校、大倉経済専門学校、東京経済大学、東京経済大学短期大学部などに関する史資料を収集しています。これまで文書類の紙資料、制服・記念品などの現物資料、テープ類の音声と映像資料、写真やアルバム資料、など多様な歴史資料をご寄贈いただいております。お気づきのときにはご連絡くださいますようによろしく願いいたします。

問い合わせ先

史料室 TEL 042(328)7955

入会のお願

大倉喜八郎記念 東京経済大学 学術芸術振興会

地域文化振興のため、活動を支えていただけましたら幸いです。会員は同会主催イベントへのご招待のほか、大学図書館や提携施設(美術館) 割引が利用できます。

ご関心をお持ちの方には同会リーフレットを郵送いたします。

問い合わせ先

東京経済大学広報課

直通電話 TEL 042(328)7900

Eメール pr@s.tku.ac.jp

OPEN CAMPUS 2011



QRコードからキャラクターをゲットして、オープンキャンパスでご提示ください！記念品をプレゼント！

オープンキャンパス 2011 — 新しい生活。新しいキャンパス。



7
17
日曜日

8
21
日曜日

8
22
月曜日

9
19
月曜・祝日

【入退場自由】10時～15時（受付は14時30分まで）

東京経済大学

JR中央線・西武多摩湖・国分寺線「国分寺駅」南口下車徒歩12分
経済学部・経営学部・コミュニケーション学部・現代法学部・21世紀教養プログラム
〒185-8502 東京都国分寺市南町1-7-34 TEL: 042-328-7724 E-mail: pr@s.tku.ac.jp
ウェブサイト: <http://www.tku.ac.jp/> モバイルサイト: <http://tku-i.mobi/>

※今夏、首都圏エリア高校・高校生、受験生に配布